

## 株式会社アドバンテスト

### 2020年3月期(2019年度)第3四半期決算説明会 質疑応答要旨

2020年1月29日(水)

- Q: システムレベル・テスト(SLT)については業界関係者からポジティブな評価が高く、今後の伸びが期待されるが、今後どのくらいの成長を見込んでいるか？
- A: ハイエンド SoC の SLT 需要は、半導体プロセスの高度化に伴って今後継続的に増加していく。また車載系も、信頼性の担保要請から、より高度なレベルの試験が求められる。これら分野が SLT の成長エリアと考えている。事業規模としては、将来的に年間 100 億円以上のビジネスへの成長期待がある。
- Q: ディスプレイ・ドライバ IC 用テスト、バーイン・テスト、プローブ・カードなど、今回プレゼンテーションでコメントされなかった事業の今後の見通しを伺いたい。
- A: ディスプレイ・ドライバ IC 関連は、FY18 は非常に活況だったが、反動で FY19 の需要は大幅に減った。現状の稼働率からみて、FY20 は FY18 のような大きな需要は出てこないとみている。ただ TDDI 採用や CoF 採用といったトレンドは続いており、年間 100 億円レベルのビジネスが続くと思っている。
- バーイン・テストは、DRAM のコアテストとバーイン需要の伸びを当社はターゲットにしている。それを取り込むための製品投入も完了済で、これを拡販していく。
- フォトマスク CD-SEM については、ファウンドリの EUV 関連需要の伸びに伴い当社も事業機会を得ており期待しているが、市場規模の面から当社事業への貢献度は大きなものは見込んでいない。
- プローブ・カードについては、当社は後発であるため、まずは成功確率の高いユーザーを獲得し実績を積み、それを水平展開していくという戦略を取っている。
- Q: FY20 は FY18 に記録した過去最高益に挑戦したいとの話があったが、その前提として CY20 の市場シェアの見通しを伺いたい。また過去最高益更新にどの位の確度を持っているか？
- A: 現状 50%強を握っている市場シェアが大幅に伸びるとは考えていない。SoC テスタ市場は顧客ごとの投資大小で市場シェアが変化しやすく、今のシェアを維持していくことが一番大事。メモリも同様で、現状 50%以上あるシェアの維持が目標。「CY18 比で市場が縮小する分、FY18 業績には届かないのでは？」との意見もあると思うが、テストの売上減少分は SLT 事業や今回買収したソケット事業を当社に加えたことでカバーできると考えており、FY18 業績を超えていくことも可能だと思っている。
- Q: 御社の競合企業は、DRAM I/F テストでデザイン・インを獲得した、とコメント。それでもメモリ・テスタ市場でのシェア 50%以上を今後も維持可能と考えているか？

- A: ユーザー毎に勝ち負けは当然ある。ただ総じては、当社の方がメモリでは強いと考えている。また、これまで当社が取れていなかったフラッシュ・メモリで市場を取り始めているし、バーイン・テストでも当社が勝っていけると考えている。これらからメモリ・テスト市場で今後も 50%以上のシェアを維持していけると考えている。
- Q: SLT 事業の 3Q 受注は大きな模様だが、今後の持続性はどうか？
- A: 現状の当社の SLT 製品は SSD 向けと、昨年買収した SoC 向けの2つ。今は双方とも好調に推移。今後については、SSD 向けは、短期アップダウンはあろうが、十分伸びを期待できる。SoC 向けについては、半導体の複雑性向上が進む中、信頼性確保の観点からチップ・テストに加えシステム段階でのテストが必須となる市場が今後増えていくだろう。こちらはあまりアップダウンなく安定的に FY20 も伸びていくという見方。
- Q: 2015 年をボトムとして、SoC テスタ市場は継続的に拡大している。かつ、その変動幅も小さくなっているように思える。その理由をお聞かせいただきたい。
- A: 技術の進歩ペースや半導体の需給バランス次第で、今後もテスタ需要の変動は起こりうると考えている。結果論としてはご指摘の通り、SoC テスタ市場は 2015 年以降右肩上がりとなっているが、ディスプレイ・ドライバ IC 用テスタの落ち込みを 5G 関連のテスタがカバーするといったように、内訳をとれば依然大きな変動が存在している。ただ、技術の進化に伴い SoC 半導体の種類や用途が広がっている中、個々に生じる需要変動を互いに埋めあうようになってきているおかげで、結果的に市場変動の波は小さくなっていると考えている。
- Q: 2019 年の 5G 関連の需要規模はどれくらいあったか？また 2020 年の 5G 関連需要は増加していく見通しか、あるいは減速するのか？
- A: 5G の市場拡大効果を当初\$200~400M 程度と見込んでいたが、それを上回る需要が 19 年に出ている。5G 関連需要は\$500~600M 程度あったのではないかと考えている。2020 年の 5G 関連需要については、現時点では 2019 年と同レベルを想定している。
- Q: 前回の決算説明会で 5G 関連のテスタ需要減速の可能性について言及があったが、現状の見通しは？
- A: 5G 関連のビジネスは前倒し気味に引合いが到来し、大きく FY19 の業績に貢献している。その前倒しもあって、FY20 については、SoC テスタ市場全体と同様、5G 関連ビジネスはフラットと現状考えている。ただ 5G 端末は今後確実に増えていく。5G 端末向けでは当社は強く、この流れを確実に捉えてビジネスを伸ばしていきたい。
- Q: メモリ・テスタ市場は 2020 年に前年から 20%強伸びるとのことだが、2020 年のメモリ・テスタ市場は、フラッシュ・メモリと DRAM、どちらの方が市場を大きく牽引すると考えているか？

- A: LPDDR5 は想定よりも立ち上がりが早かったが、今後も徐々に伸びていくと考えている。フラッシュ・メモリについても、クライアント SSD やエンタープライズ SSD の復調が、やはりテスト需要を今後牽引していただろう。下期のビジビリティは限られているが、DRAM で DDR5 の立ち上がりが予定されていることを踏まえると、2020 年のメモリ・テスト市場の伸びについては、DRAM の方が、金額寄与度が大きくなると考えている。
- Q: 5G 関連受注の中身についてお伺いしたい。1Q はエンジニアリング用途、2Q は初期量産用途、では 3Q は？ また今後 5G の本格量産用途の受注はいつ到来するか。
- A: 大量生産とまではいかないかもしれないが、顧客の量産活動はすでにスタート。3Q 受注はそれに関連した受注と捉えている。そして今後、スマートフォン用アプリケーション・プロセッサ向けの需要は、FY20 の 1Q 以降にまた伸びていくと予想する。受注時期としては FY20 の 1Q を予想。
- Q: 5G 関連の御社のシェアが、CY20 にさらに上昇する可能性はあるか。
- A: 市場シェアは顧客ミックスによって変動する。その中で CY20 前半は少し厳しい局面があるかもしれないが、CY20 年後半は当社にとってポジティブな状況に向かっていくと思う。
- Q: LPDDR5 向けで実際に競合企業にシェアを奪われている感覚はあるか。
- A: 当社製品に優位性があると思っているし、顧客との長年の関係もある。当社がシェアを失うという危機感はない。顧客が 2社購買を進めるというトレンドはあるが、当社としてはこの領域で高シェアをしっかりと維持していきたい。
- Q: SoC の 27 億ドル、メモリの 8 億ドルという CY20 の市場規模予想を上期と下期で分けるとどうか。また 5G 関連需要は、CY19 下期と CY20 上期に需要が寄り、CY20 下期に減速するという見方はできるか。
- A: SoC は上期/下期フラット、メモリは下期に向けてビジネスが上向いていくと考えている。SoC テスタの売上構成は、コンピューティング・通信が 6 割ほどで推移すると考えている。ただ評価用などの用途や、新ノードの信頼性担保要求など、様々な要素が市場を形作っていくので、今後の見通しに関しては精査を要している。
- Q: 5nm/7nm など EUV の立ち上がりによる歩留まり悪化は、SoC テスタ需要にどういった影響を与えるか。
- A: 顧客の歩留まりについて言及することはできない。一般論としては、歩留まりが悪ければ、同じアウトプットを出そうとするとより多くのテスト台数が必要となる。ただテスト需要は歩留まりだけでなく、半導体生産の増減影響も大きい。19 年下期の SoC テスタ需要減速を予想して

いたにも関わらず、想定より落ち込まなかったのは、5G デバイスが中量生産に入り物量が増えてきたからです。

以上

※本資料に記載されている内容は、決算説明会の質疑をもとに当社の判断で要約したものです。また本資料には、将来の事象についての、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれております。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているものまたは暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。